

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 5 月 13 日

所属	基盤教育機構	職名	准教授	氏 名	栢岡 大輔
研究課題	遠藤隆吉の生々主義哲学研究				
研究キーワード	生々主義哲学	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	16. 平和と公正をすべての人に	10. 人や国の不平等をなくそう	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	
1. 研究成果の概要 2024 年度、遠藤隆吉の生々主義哲学研究においては、主に文献調査と有志学生との生々主義哲学研究会・福祉活動の実践の成果を見ることができる。生々主義哲学そのものを語るとき、その一般説明ではやはりなかなか理解することには困難がある。(哲学用語や抽象度の高さなどに起因する)そこで、「生々示字碑」をベースにしつつ、「生々主義哲学」を理解するための有志学生の活動を実行した。これが Project ARC である。春学期末には、石碑、森志久馬像、遠藤隆吉像を清掃する「WISH,WASH」を実施。秋学期には、試験的ではあるが、「生々主義哲学会議」と題したオープン会議を実施、学生たちの現在の課題や問題について話し合う時間を作ることができた。生々主義哲学会議から、WISHWASH や他の企画など、学生たちの「現場」から生まれる「希望」に向かって「企画する」、「実施したことを報告する」というところまで、一連の動きをまとめて実施できるようにすることが、今後の課題であろう。「生々主義哲学」に限らず、遠藤隆吉の求めるところは、頭でっかちになってわかったつもりになることよりも、より、人間そのものの声に互いに傾聴し合い、互いをよりよく生かすための挑戦にむかうことをよしとするであろう。25 年度においても継続し、また、研究については文研調査を進めてゆきたい。 2. 著書・論文・学会発表等 (できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載) 【論文 (査読あり)】 なし 【著書・論文 (査読なし)】 なし 【学会発表等】 なし 3. 主な経費 ノート PC の故障による買い替え 4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等) とくになし (本文は 2 ページ以内にまとめること)					